

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	運動機能解剖学			担当講師	米田 彰		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	46 時間	学 年	1年次	学 期	前期
概 要	疾病・障害を診るためには、人体の正常な形態と構造を理解する必要がある。運動機能解剖学では、解剖学の中でも特に運動に関係する骨・靱帯・筋の名称と構造について学ぶ。 構造的な骨・筋の理解と合わせて、人間が行う基本的な運動の中でどのように機能しているのかを学ぶ。						
到達目標	骨・靱帯・筋の構造を運動と合わせて理解すると共に、体幹・上肢・下肢の骨・靱帯・筋がどのように機能しているかを学び、運動機能に関する知識を深める。 1 体幹・上肢・下肢の骨・靱帯・筋・神経の名称が言える。 2 体幹・上肢・下肢の筋の起始部停止部が言える。 3 体幹・上肢・下肢の骨・靱帯・筋・神経の構造と機能が説明できる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容	
1	オリエンテーション、総論	
2	キーワード、人体の骨	
3	上肢の骨（肩甲骨、鎖骨、上腕骨、橈骨、尺骨、手根骨、中手骨、指骨）	
4	下肢の骨（寛骨、膝蓋骨、大腿骨、脛骨、腓骨、足根骨、中足骨、趾骨）	
5	上肢帯の骨（肩甲骨、鎖骨）	
6	自由上肢の骨（上腕骨、橈骨、尺骨）	
7	自由上肢の骨（手根骨、中手骨、指骨）	
8	下肢帯の骨（寛骨）	
9	自由下肢の骨（大腿骨、膝蓋骨、脛骨、腓骨）	
10	自由下肢の骨（足根骨、中足骨、趾骨）	
11	上・下肢骨小テスト	
12	上肢の筋、上腕の筋	
13	前腕の筋、手部の筋	
14	上肢筋まとめ（起始・停止）	
15	上肢筋小テスト	
16	下肢の筋	
17	大腿の筋	
18	下腿の筋、足部の筋	
19	下肢筋まとめ（起始・停止）	
20	下肢筋小テスト	
21	神経、靱帯	
22	終講試験対策講義	
23	終講試験（筆記）	

評価方法	終講試験に基づいて学修成果を判定する。
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第6版 プロメテウス解剖学コアアトラス 第4版 基礎運動学 第7版
参考書	
備 考	※運動学、解剖学と関わります。 ※理学療法評価学基礎Ⅰ・Ⅱ、体表解剖学Ⅰ・Ⅱにもつながっていきます。 ※しっかりと自己学習（予習・復習）して下さい。

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	基礎解剖生理学			担当講師	佐藤 正一		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	46 時間	学 年	1年次	学 期	前期
概 要	人体の構造と機能および生命維持のメカニズムを学び、人体理解の基礎を身につけることで、解剖学・生理学でのより具体的な学習へ結びつける。						
到達目標	身体機能・構造と生命維持のメカニズムが統合して解釈できる。 生命体の最小単位である細胞や人間の生命維持活動に必要な機能について理解する。 さらに、身体を構成する組織・器官を筋・骨格系、神経系、内臓諸器官系に大別し、これらの構造と機能について学ぶ。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	ガイダンス、人体各部の構造と機能について
2	身体の支持と運動（骨格と関節の種類）
3	細胞の構造と機能（上皮組織・筋組織・神経組織）
4	細胞の構造と機能（静止電位・活動電位）
5	骨の構造と機能、関節の構造
6	筋肉の構造と収縮のメカニズム
7	呼吸器系の機能と構造
8	呼吸器系（呼吸気量、ガス交換）
9	循環器系の構造
10	心臓の構造と機能
11	刺激伝導系
12	血液
13	免疫系
14	内臓系①（消化と吸収）
15	内臓系②（肝臓・膵臓・腎臓の構造と機能）
16	内臓系③（腎臓の構造と機能・排泄のメカニズムと体液の調整）
17	神経系①（神経系の構造 情報伝達のしくみ）
18	神経系②（中枢神経系 脳と脊髄）
19	神経系③（中枢神経系 神経伝導路）
20	神経系④（末梢神経系）
21	神経系⑤（末梢神経系・自律神経系）
22	内分泌系の構造と機能 体温調整 まとめ
23	終講試験

評価方法	筆記試験にて評価する
教科書	系統看護学講座「人体の構造と機能① 解剖生理学」医学書院
参考書	解剖生理をおもしろく学ぶ サイオ出版
備 考	

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☐
科目名	解剖学Ⅰ			担当講師	日高 輝久		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1 年次	学 期	前期
概 要	疾病・障害を診るためには、人体の正常な形態と構造を理解する必要がある。解剖学Ⅱでは、特に筋骨格系、呼吸器系、中枢神経系、末梢神経系、循環器系、各臓器・器官の形態・構造を学ぶとともに、人間の動きの中でどのような役割をしているかを併せて学ぶ。						
到達目標	脈管・神経系の形態および構造を各論的に学ぶと共に各臓器・器官の機能的役割を把握し、人体機能に関する知識を深める。 1. 人体の各部位の名称がわかる。 2. 人体の脈管・神経系の正常な形態と構造を説明できる。 3. 各臓器・器官の形態と構造を説明できる。 4. 各臓器・器官の機能的役割を説明できる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	オリエンテーション、解剖学基礎知識
2	解剖学総論（解剖学とは、人体の構成、人体の発生）
3	消化器系①
4	消化器系②
5	呼吸器系①
6	呼吸器系②
7	血液①
8	血液②
9	循環器系①
10	循環器系②
11	泌尿器・生殖器系①
12	泌尿器・生殖器系②
13	内分泌系①
14	内分泌系②
15	終講試験

評価方法	筆記試験にて評価する
教科書	プロメテウス解剖学コアアトラス 医学書院 病気が見える Vol.7 脳・神経
参考書	解剖生理学 人体の構造と機能 医学書院 人体解剖学（改訂第42版） 南江堂 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版 医学書院
備考	解剖学は基礎の一つとなる重要な科目です

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	解剖学Ⅱ			担当講師	佐藤 正一		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	疾病・障害を診るためには、人体の正常な形態と構造を理解する必要がある。解剖学Ⅱでは、特に筋骨格系、呼吸器系、中枢神経系、末梢神経系、循環器系、各臓器・器官の形態・構造を学ぶとともに、人間の動きの中でどのような役割をしているかを併せて学ぶ。						
到達目標	1. 骨・関節の形態と構造および、人間の動きの中での役割が説明できる。 2. 骨格筋の形態と構造および、人間の動きの中での役割が説明できる。 3. 神経（末梢・中枢神経系）の形態と構造および、人間の動きの中での役割が説明できる。 4. 呼吸器の形態と構造および、人間の動きの中での役割が説明できる。 5. 循環器の形態と構造および、人間の動きの中での役割が説明できる。 6. その他の内臓器（消化器・泌尿器・内分泌器・生殖器など）の形態と構造および、人間の動きの中での役割が説明できる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	ガイダンス、発生、脊椎の構造
2	胸郭の構造（骨格）、胸部の筋
3	呼吸器①
4	呼吸器②
5	循環器系①（総論・心臓） 血管構造
6	循環器系②（大動静脈・上下肢の血管）
7	循環器系③（頭頸部の血管）
8	神経系総論
9	中枢神経①（大脳・脊髄）
10	中枢神経②（基底核・小脳）
11	末梢神経系
12	感覚器
13	神経伝導路（下行路）
14	神経伝導路（上行路）
15	試験

評価方法	筆記試験にて評価する
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版 医学書院
参考書	プロメテウス解剖学コアアトラス 医学書院 病気が見える Vol.7 脳・神経 解剖生理学 人体の構造と機能 医学書院 人体解剖学（改訂第42版） 南江堂
備 考	解剖学は基礎の一つとなる重要な科目です

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	生理学			担当講師	杉田 憲司・栗原 琴二		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	60 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	生理学では、健康や病気を理解する為に必要な基礎学問である。人間が健康に日常生活を営むために、生体の各組織や器官が機能を発揮し、神経やホルモンなどの作用により身体の調和が保持されている。その調節機構として、大きく内分泌系と神経系の2つに分けることができる。 内分泌系である呼吸・循環・消化吸収・排泄・代謝などの生命維持に必要な各機能の調節を統合的学習する。また、解剖学や動物生理学などの基礎知識とも統合した見解を持つことで、生体の異常（病気）について理解することが望ましい。 神経系を取り上げ神経・筋・感覚器の基本的性質について学習する。また、解剖学や植物生理学などの基礎知識と統合した見解を持つことで、生体の異常（病気）について理解することが望ましい。						
到達目標	正常な人体の諸機能を理解し、いかに統合的に働いているかを理解する。また、以下の内容を人体構造と体内の物質的機能と関連付けて考え、説明することが出来る。 1. 循環 2. 消化と吸収 3. 排泄 4. 呼吸 5. 代謝 6. 内分泌 7. 発生と組織 8. 神経の構造と特性について理解できる 9. 中枢・末梢・自立神経の機能について理解し説明することが出来る 10. 筋の機能 11. 感覚器						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	概論、細胞小器官の機能						
2	神経系の基礎						
3	自律神経系①						
4	自律神経系②						
5	中枢神経系①						
6	感覚器系①						
7	感覚器系②						
8	筋系①						
9	筋系②						
10	運動調節機構①						
11	運同調節機構②						
12	まとめ						
13	血液①						
14	血液②						
15	免疫						
16	消化と吸収①						
17	消化と吸収②						
18	消化と吸収③						
19	内分泌系①						
20	内分泌系②						
21	泌尿器系①						
22	泌尿器系②						
23	代謝系						
24	血液						

25	呼吸器系（生理）①
26	呼吸器系（生理）②
27	循環器系①
28	循環器系②
29	老化
30	終講試験

評価方法	筆記試験にて評価する
教科書	やさしい生理学 改訂第7版 南江堂
参考書	なし
備 考	

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	人間発達学			担当講師	小林 聖美		
分野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	1 単位	時 間	16 時間	学 年	2年次	学 期	前期
概 要	胎児期、乳・幼児期、小児期、青年期、成人期、老年期といったライフステージを通した人間理解のために、それぞれの発達過程を学ぶ。人生の各期において抱える健康面の課題やライフスタイルの変化について学ぶ。						
到達目標	1. 胎児の発達過程での機能・形態的变化について説明できる。 2. 乳・幼児期における運動発達、精神発達、言語発達について説明できる。 3. 小児期における運動発達、精神発達、言語発達について説明できる。 4. 青年期における身体構造の変化、生理機能の変化、心理・社会的変化について説明できる。 5. 成人期における身体構造の変化、生理機能の変化、心理・社会的変化について説明できる。 6. 老年期における身体構造の変化、生理機能の変化、心理・社会的変化について説明できる。 7. 人間発達過程における性差について説明できる。 8. 各期において抱える健康面の課題について説明できる。 9. 各期におけるライフスタイルの変化について説明できる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	オリエンテーション、人間発達概論						
2	胎児期における発達過程						
3	乳・幼児期における発達過程						
4	小児期における発達過程						
5	青年期、成人期、老年期における発達過程						
6	各期における健康面の課題						
7	各期におけるライフスタイルの変化						
8	終講試験						
評価方法	出席、レポート、筆記試験等を加味し総合的に評価する						
教科書	配付資料						
参考書	生涯人間発達（三輪書店） 子どもの理学療法（神陵文庫）						
備 考	演習形式の授業を取り入れる。学生の理解度によって授業内容を変更する。						

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	体表解剖学Ⅰ			担当講師	芝沼 大輝・山口 茜・藤井未来		
分 野	専門基礎	授業方法	講義・演習	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	46 時間	学 年	1 年次	学 期	後期
概 要	事前に学習した解剖学をもとに、学生同士で実際の骨・筋・神経・血管を触診し、関節を動かすことで人体の構造を立体的にとらえ、今後学習する運動学や臨床現場での様々な疾患を持つ患者の評価（動作分析等）・治療に役立てることを目的とする。						
到達目標	1. 神経・血管の走行を理解し、触診ができる。 2. 骨のランドマークを理解し、触診ができる。 3. 筋の起始・停止・神経支配を理解し、触診ができる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	触診の意義
2	骨（肩甲骨）
3	骨（肩甲骨）
4	骨（鎖骨・上腕骨・前腕骨）
5	骨（鎖骨・上腕骨・前腕骨）
6	三角筋（前部・中部・後部）
7	大胸筋（鎖骨部・胸肋部）・小胸筋・前鋸筋
8	棘上筋（前部・後部）
9	棘下筋（上部・下部）
10	小円筋・大円筋・広背筋
11	僧帽筋（上部・中部・下部）
12	菱形筋・肩甲下筋
13	上腕二頭筋・肩甲挙筋
14	上腕筋・烏甲腕筋
15	上腕三頭筋・腕橈骨筋
16	円回内筋・方形回内筋
17	長掌筋・橈骨手根屈筋
18	長・短橈骨手根伸筋
19	尺側手根伸筋・尺側手根屈筋
20	まとめ①
21	まとめ②
22	終講試験（実技）
23	終講試験（実技）

評価方法	実技試験に基づいて学修成果を判定する。
教科書	運動療法のための機能解剖学的触診 上肢 改訂第2版 動画プラス
参考書	プロメテウス解剖学コアアトラス 第2版 基礎運動学 第6版補訂 医歯薬出版株式会社
備考	しっかりと自己学習（予習・復習）してきてください。

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	体表解剖学Ⅱ			担当講師	米田彰・山口茜・藤井未来		
分 野	専門基礎	授業方法	講義・演習	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	46 時間	学 年	2年次	学 期	前期
概 要	事前に学習した解剖学をもとに、学生同士で実際の骨・筋・神経・血管を触診し、関節を動かすことで人体の構造を立体的にとらえ、今後学習する運動学や臨床現場での様々な疾患を持つ患者の評価（動作分析等）・治療に役立てることを目的とする。						
到達目標	1. 神経・血管の走行を理解し、触診ができる。 2. 骨のランドマークを理解し、触診ができる。 3. 筋の起始・停止・神経支配を理解し、触診ができる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容	
1	オリエンテーション、骨盤（腸骨稜、上前・下前・上後腸骨棘、坐骨結節）	米田・山口
2	大腿骨（大転子、大腿骨頭）	山口・米田
3	膝関節周囲（膝蓋骨、大腿骨膝蓋面、大腿骨内・外側顆、脛骨内・外側顆）	山口・米田
4	膝関節周囲（大腿骨内・外側上顆、内転筋結節、脛骨粗面、腓骨頭）	山口・米田
5	膝関節関連（内側側副靱帯、外側側副靱帯、膝蓋靱帯、腸脛靱帯）	山口・米田
6	足関節および足部周辺（内果、外果、距腿関節、距骨、足根洞）	山口・米田
7	足関節および足部周辺（踵骨、踵骨隆起、載距突起、距骨下関節、踵立方関節）	山口・米田
8	足関節および足部周辺（舟状骨、内・中間・外側楔状骨、母趾中足骨）	山口・米田
9	足関節および足部周辺（足根中足関節、第2～5中足骨、第5中足骨粗面、立方骨）	山口・米田
10	中間試験（実技：膝周囲）	山口
11	スカルパ三角関連（鼠径靱帯、大腿動脈、大腿神経、大腿外側皮神経）	米田・山口
12	股関節に関わる筋①	米田・山口
13	股関節に関わる筋②	米田・山口
14	膝関節に関わる筋①	米田・山口
15	膝関節に関わる筋②	米田・山口
16	足関節および足部に関わる筋①	米田・山口
17	足関節および足部に関わる筋②	米田・山口
18	股関節筋総まとめ	米田
19	膝関節筋総まとめ	米田
20	足関節および足部の筋総まとめ	米田
21	下肢触診総まとめ①	米田
22	下肢触診総まとめ②	米田
23	終講試験（実技：筋）	米田

評価方法	中間試験、終講試験（実技）に基づいて学修成果を判定する。 ・ 中間試験、終講試験どちらも60点以上を合格とする。 ・ 片方でも60点に満たない場合は不合格とする。
教科書	運動療法のための機能解剖学的触診 下肢・体幹 改訂第2版 動画プラス
参考書	プロメテウス解剖学コアアトラス 第3版 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版

備 考	※実習に準ずる身だしなみで参加してください。 ※しっかりと自己学習（予習・復習）してきて下さい。 ※解剖学（骨・靱帯・筋）の知識、筋の起始停止・作用・走行の知識が必須となります。
-----	---

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	解剖学見学実習			担当講師	塚田幸行、西野正洋、青山広道、小川博之、米田彰		
分 野	専門基礎	授業方法	講義・演習	実務経験			
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	後期
概 要	解剖学・運動機能解剖学を基にして人体の構造を系統的に観察し、理解する。骨格系・筋系、血管系・神経系および内臓の形態と位置関係を肉眼的なレベルで立体的に把握することで、人の正常な形態と機能についてや個人差の存在を知る。また、疾患における形態や機能の変化を推測し得る能力を学ぶ。						
到達目標	体表から触知できる骨・筋や浅部に位置する神経・血管・リンパ節などを確実に把握すること、深部に位置する筋や臓器を体表へ投影してその位置関係を確認し把握する。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容	
1	オリエンテーション	
2	解剖学見学実習総論、下肢、神経	
3	末梢神経	
4	脳神経（1）	
5	脳神経（2）	
6	肩関節	
7	肘関節	
8	手関節	
9	下肢	
10	腹腔・その他	
11	神経	
12	解剖学見学実習（学外実習）：筋、神経、内臓（1）	
13	解剖学見学実習（学外実習）：筋、神経、内臓（2）	
14	解剖学見学実習（学外実習）：筋、神経、内臓（3）	
15	解剖学見学実習（学外実習）：筋、神経、内臓（4）	

評価方法	出席、課題等を加味し総合的に評価する。
教科書	プロメテウス解剖学 コアアトラス 医学書院
参考書	人体解剖学（改訂第42版） 南江堂
備 考	

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	公衆衛生学			担当講師	酒井 聖子		
分野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	1 単位	時 間	16 時間	学 年	1年次	学 期	前期
概 要	WHOでは、公衆衛生学を次のように定義している。「組織された地域社会の努力を通して、疾病を予防し、生命を延長し、身体的、精神的機能の増進をはかる科学であり技術である」特定の集団に対して、上記のことを考える場合に必要な知識、考え方を学ぶ。						
到達目標	1. 公衆衛生学とは何か説明できる。 2. 健康、健康増進とは何か説明できる。 3. 感染症、疾病予防、生活習慣病予防について説明できる。 4. 公衆衛生に対しての国の役割を説明できる。 5. 公衆衛生に対しての市町村の役割を説明できる。 6. 公衆衛生に対して理学療法士が何が出来るか説明できる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	公衆衛生学概論、人口問題						
2	疫学、保健統計						
3	生活環境の保全						
4	感染症、食品衛生						
5	精神保健福祉、障がい者、難病						
6	親子の保健課題と対策（母性・母子・学校）						
7	成人保健、高齢者保健						
8	終講試験						
評価方法	筆記試験にて評価する						
教科書	学生のための現代公衆衛生						
参考書	なし						
備 考							

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	病理学			担当講師	日高 輝久		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	病理学では、組織・細胞レベルで病気の機序や病気の結果として生じた臓器組織上・機能上の変化を明らかにし、病気の本質を学ぶ。また、治療についての基本概念と共に疾病予防のための基本的知識を学ぶ。						
到達目標	1. 病気の原因を説明できる。 2. 病気による循環障害を説明できる。 3. 病気による循環障害を説明できる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	病理学の概要、病因論
2	先天異常①
3	先天異常②
4	循環
5	炎症
6	感染症①
7	感染症②
8	免疫疾患①
9	免疫疾患②
10	アレルギー
11	退行性病変①
12	退行性病変②
13	腫瘍①
14	腫瘍②
15	終講試験

評価方法	筆記試験にて評価する
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学 第4版 医学書院
参考書	なし
備 考	

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	臨床心理学			担当講師	小幡 知史		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	臨床心理学の全体像を広く俯瞰することを目的とする。						
到達目標	1. 一般心理学と臨床心理学の違いを説明できる。 2. 基礎理論について説明できる。 3. 心理アセスメントを説明できる。 4. 様々な心理療法の概要を説明できる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	臨床心理学とは						
2	臨床心理学の歴史と基本理論						
3	力動論①						
4	力動論②						
5	行動論①						
6	行動論②						
7	人間性心理学						
8	認知理論・認知行動療法						
9	家族療法とコミュニティ心理学①						
10	家族療法とコミュニティ心理学②、臨床心理学の実際						
11	心理アセスメント①						
12	心理アセスメント②						
13	家族支援						
14	行動分析学						
15	終講試験						
評価方法	授業参加度、筆記試験等を加味し、総合的に評価する。						
教科書	指定書籍なし						
参考書							
備 考							

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	内科学			担当講師	小泉 勇人		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	1. リハビリテーション対象疾患を中心に、病態生理と代表的な治療・治癒過程を学ぶ。 2. 内科における治療、理学療法対象疾患に対するリスク管理、画像診断も含め学習する。また、臨床実習のみならず理学療法士として現場で評価・治療が円滑に行えることを目的とする。						
到達目標	1. 代表的疾患を学習することによって、リハビリテーションの介入の時期や方法・またその注意点などと関連付けて専門領域に反映させる。 2. 呼吸器疾患の病態が理解でき説明ができる。 3. 循環器疾患の病態が理解でき説明ができる。 4. 代謝系疾患の病態が理解でき説明ができる。 5. 各疾患に対して理学療法を行う際のリスク管理が理解でき説明ができる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	内科学総論、呼吸器系疾患総論						
2	内分泌系疾患総論						
3	循環器系疾患総論						
4	循環器系疾患総論						
5	代謝系疾患総論						
6	リスクマネジメント						
7	生活習慣病 糖尿病 高血圧 高脂血症 狭心症 心筋梗塞						
8	慢性閉塞性肺疾患						
9	血液疾患						
10	癌						
11	感染症						
12	院内感染						
13	自己免疫疾患 AIDS						
14	脳卒中の内科的治療法						
15	終講試験						
評価方法	筆記試験にて評価する						
教科書	標準理学療法学・作業療法学 内科学 第4版 医学書院						
参考書	新臨床内科学 コンパクト版 医学書院						
備 考							

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	整形外科学			担当講師	平澤直之、日下部拓哉、出口友彦		
分野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	理学療法、作業療法分野において運動器を扱う整形外科患者は多い。この科目では整形外科の基礎疾患・原因・治療・リハビリテーションを学習し、現場で評価・治療が円滑に進められることを目的とする。 さらに、整形外科の疾患、各論について学習し理解を深める。また、各疾患の治療法（手術法）を理解しリハビリテーションの重要性を把握し今後の専門分野の学習意欲を高める。						
到達目標	1. 整形外科の診断、治療が理解できる。 2. 整形外科疾患の総論を理解し説明ができる 3. 整形外科疾患の各論を理解し説明ができる 4. 整形外科外傷について理解し説明ができる 5. 各疾患に対する治療法（手術法）を理解しリハビリテーションの重要性を説明ができる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	整形外科診断総論（診察の基本 検査 等）						
2	整形外科治療総論（保存療法 手術療法 等）						
3	整形外科疾患総論（感染症 リウマチ 変形性関節症 等）						
4	整形外科疾患総論（熱傷 骨腫瘍 軟部腫瘍 神経疾患 等）						
5	整形外科疾患各論（リウマチ）						
6	整形外科疾患各論（頸椎疾患）						
7	整形外科疾患各論（腰椎疾患）						
8	整形外科疾患各論（股関節疾患）						
9	整形外科疾患各論（人工股関節全置換術（THA）について）						
10	整形外科疾患各論（膝関節）						
11	整形外科疾患各論（上肢）						
12	整形外科疾患各論（スポーツ）						
13	整形外科疾患各論（まとめ）						
14	整形外科外傷学（軟部組織損傷 脊椎・脊髄損傷 末梢神経損傷 等）						
15	整形外科外傷学（骨折・脱臼 等）						
評価方法	筆記試験（時間外）にて評価する						
教科書	標準整形外科学 第14版 医学書院						
参考書	なし						
備 考							

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	精神医学			担当講師	大谷 秀幸		
分野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	1 単位	時 間	16 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	精神医学では、系統講義（総論・各論）を中心に代表的な精神疾患についての原因・病態・診断・治療について学習する。また、患者の精神の問題を多面的にとらえていけるよう、精神医学の基礎に基づいた患者の行動観察や心理面の把握、患者と治療者との関係の考え方などを学ぶ。						
到達目標	1. 精神医学とは何か説明できる。 2. 精神疾患について知識を得る。 3. 患者の行動観察ができるようになる。 4. 患者と治療者との関係の考える。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	心身症・神経症						
2	ストレス関連障害・睡眠・摂食						
3	脳の急性・慢性障害						
4	アルコール・薬物関連障害						
5	児童・青年期精神医学						
6	性格のかたより						
7	うつ病、統合失調症						
8	終講試験						
評価方法	筆記試験にて評価をする						
教科書	精神医学ハンドブック 医学・保健・福祉の基礎知識 日本評論社						
参考書	なし						
備 考							

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	神経内科学			担当講師	日高 輝久		
分野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	1 単位	時 間	16 時間	学 年	2年次	学 期	前期
概 要	リハビリテーションにおける脳・脊髄神経系、末梢神経、筋の機能とそれらに関する神経疾患の病態と診断、治療についての知識を学習する。また、個々の障害に対する評価法と基本的なリハビリテーション治療への理解を深めることを目標にしている。						
到達目標	1. 各神経症候について説明できる。 2. 神経学的診断法を説明できる。 3. 代表的な神経疾患について説明ができる。 4. 神経疾患における合併症について説明できる。 5. 神経疾患を有する方へのケアについて説明できる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	神経系の構造と機能						
2	脳神経、脊髄神経、髄膜炎、てんかん、頭痛						
3	運動神経、感覚神経、脳画像検査						
4	運動ニューロン疾患、認知症						
5	脳腫瘍、脊髄疾患、重症筋無力症、パーキンソン病						
6	免疫性神経疾患、脳卒中、高次脳機能障害、失語症						
7	ロボットリハビリテーション、末梢神経疾患、筋疾患						
8	終講試験						
評価方法	レポート、出席、筆記試験等を加味し総合的に評価をする						
教科書	病気が見える Vol.7 脳・神経						
参考書	なし						
備 考							

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	小児科学			担当講師	中 徹		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	1 単位	時 間	16 時間	学 年	2年次	学 期	前期
概 要	小児科の全疾患の特徴を理解する。中でも小児骨折、二分脊椎、筋ジストロフィー、脳性麻痺、重症心身障害児者は理学療法との関連も理解する						
到達目標	1. この授業で学習する小児疾患の典型的な症状を理解する。 2. この授業で学習する小児疾患に必要な理学療法について理解する。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	小児科総論・診断と治療の概要
2	新生児・未熟児と疾患 / 感染症
3	先天異常と遺伝症
4	骨関節疾患
5	発達障害とその周辺疾患と二次障害
6	神経筋疾患 / 重症心身障害
7	内分泌疾患・代謝疾患・呼吸循環器 / 免疫疾患・膠原病
8	終講試験

評価方法	筆記試験100%
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学第6版 （医学書院）
参考書	標準小児科学 第8版（医学書院） NEW小児科学改訂第2版（南江堂） 病気がみえるvol.15 小児科 第1版
備 考	本来は15回かかる内容ですが、7回で要点を学ぶ内容となります。パワーポイントは情報量が多くなるため、板書で授業を進めますのでノート記録を頑張ってください。板書事項から試験を作成します。なを、教科書の章の内容で組んでいますので、該当箇所を事前に目を通しておいてください。

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	老年医学			担当講師	浅川 育世		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	前期
概 要	老化に伴う機能・心理の変化と疾病の関係、高齢者に多い疾患の病態と治療、高齢者医療で重要な機能評価法と退院支援の実際、高齢者をめぐる社会的問題などを総合的に学習する。						
到達目標	1. 老化について説明できる。 2. 高齢者に多い疾患について説明できる。 3. 高齢者に対するケアについて説明できる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	老化とは
2	高齢者への接し方
3	加齢に伴う変化：生理機能
4	加齢に伴う変化：運動機能
5	廃用症候群・誤用症候群・過用症候群
6	認知症とは
7	高齢者の脳血管障害，高次機能障害
8	高齢者に多い運動器疾患①
9	高齢者に多い運動器疾患②
10	高齢者の循環器疾患
11	高齢者の呼吸器疾患
12	生活習慣病のリハビリテーション
13	嚥下障害
14	課題発表
15	終講試験

評価方法	出席、レポート、筆記試験等を加味し総合的に評価する。
教科書	なし
参考書	老人のリハビリテーション第7版 医学書院 老年医学テキスト第3版 メジカルビュー コメディカルのための専門基礎分野テキスト 老年医学第2版 中外医学社
備 考	

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	医療概論Ⅰ			担当講師	大久保道子、石橋悠、奥村百合江、佐藤大河 鈴木雄一、布施操、渡邊貴弘		
分野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験			
単位数	2単位	時間	30時間	学年	2年次	学期	前期
概要	医学の歴史、栄養学、薬理学、画像検査・診断に関する内容をオムニバス形式で学ぶ。						
到達目標	1. 医学の歴史について説明できる。 2. 栄養学の概念について説明できる。 3. 人間が生活活動を維持するために必要な栄養素の役割を説明できる。 4. 薬物の作用機序、投与方法、体内動態について説明できる。 5. 各対象疾患に対する薬物療法について説明できる。 6. 薬物の副作用と多剤服用（ポリファーマシー）症状について説明できる。 7. 画像検査（Xp、CT、MRI、超音波エコー、ECG、EMGなど）について説明できる。 8. 画像評価（Xp、CT、MRI、超音波エコー、ECG、EMGなど）について説明できる。						
回	授業計画・内容						
1	オリエンテーション、医学の歴史						
2	栄養学概論（1）栄養の概念、三大栄養素						
3	栄養学概論（2）消化・吸収と栄養素						
4	栄養学概論（3）ビタミン・ミネラル						
5	栄養学概論（4）食事摂取基準						
6	薬理学概論（1）薬理学の定義、薬理作用の分類						
7	薬理学概論（2）薬物の作用機序、投与方法、体内動態						
8	薬理学概論（3）各疾患（運動器系、神経系、呼吸・循環・代謝系、その他）に対する薬物療法						
9	薬理学概論（4）薬物の副作用と多剤服用（ポリファーマシー）症状						
10	画像検査（1）Xp、CT、MRIの原理、機器、人体に与える影響について						
11	画像検査（2）超音波エコー、ECG、EMGの原理、機器、人体に与える影響について						
12	画像評価（1）Xp、CT、MRIの実例①						
13	画像評価（2）Xp、CT、MRIの実例②						
14	画像評価（3）ECG、EMGの実例③						
15	画像評価（4）ECG、EMGの実例④						
評価方法	出席、筆記試験（教科外）等を加味し総合的に評価をする						
教科書	配付資料						
参考書	なし						
備考							

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☐	
科目名	医療概論Ⅱ			担当講師	渋川悦子，渡邊まどか，米田彰，山神翔太，他		
分野	専門基礎	授業方法	講義・演習	実務経験			
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	後期
概 要	救急医学、医療安全、予防等の基礎、喀痰吸引に関する内容をオムニバス形式で学ぶ。 他の専門職（看護師，言語聴覚士）とのチーム医療・多職種連携について学ぶ。						
到達目標	1. 救急医療体制について説明できる。 2. 緊急を要する病態について説明できる。 3. 一次救命処置（BLS）について説明でき、実施できる。 4. 患者安全の重要性を説明できる。 5. 医療における有害事象について説明できる。 6. 標準予防策（スタンダードプレコーション）について説明でき、実施できる。 7. 一次予防、二次予防、三次予防について説明できる。 8. 喀痰等の吸引について説明できる。 9. 他の専門職（看護師，言語聴覚士）の専門性とチーム医療・多職種連携について説明できる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	救急医学（1）救急医療体制と重症救急疾患の特性					渡邊	
2	救急医学（2）一次救命処置（BLS）、二次救命処置					渡邊	
3	救急医学（3）一次救命処置演習					渡邊	
4	救急医学（4）一次救命処置演習					渡邊	
5	医療安全（1）患者安全と医療の質の向上					渋川	
6	医療安全（2）医療における有害事象（インシデントとアクシデント、医療事故、医療過誤）					渋川	
7	予防等の基礎（1）標準予防策（スタンダードプレコーション）					渡邊	
8	予防等の基礎（2）標準予防策（スタンダードプレコーション）の演習					渡邊	
9	予防等の基礎（3）喀痰等の吸引					渡邊	
10	予防等の基礎（4）一次予防、二次予防、三次予防					渡邊	
11	専門職連携教育（Interprofessional Education：IPE）オリエンテーション					米田，山神，他	
12	専門職連携教育（Interprofessional Education：IPE）①					米田，山神，他	
13	専門職連携教育（Interprofessional Education：IPE）②					米田，山神，他	
14	専門職連携教育（Interprofessional Education：IPE）③					米田，山神，他	
15	専門職連携教育（Interprofessional Education：IPE）④					米田，山神，他	
評価方法	出席、課題等を加味し総合的に評価をする						
教科書	配付資料						
参考書	なし						
備 考							

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	リハビリテーション概論			担当講師	芝沼大輝、柴崎健、横山信介		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	前期
概 要	リハビリテーションの基礎知識を学ぶ。また、日本の医療行政について概略を把握する。						
到達目標	リハビリテーションを構成している内容を理解する。 ①リハビリテーションの定義について説明ができる ②障害の分類について説明できる ③将来的な日本の医療を説明することが出来る ④日本の医療の特徴を分野ごとに説明できる						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	オリエンテーション、リハビリテーションとは						
2	リハビリテーションとは						
3	国際生活機能分類（ICF）						
4	国際生活機能分類（ICF）の活用（グループワーク）						
5	国際生活機能分類（ICF）の活用（グループワーク）						
6	リハビリテーション専門職種と役割、チームアプローチ、多職種連携						
7	関連法規、関連制度						
8	リハビリテーション専門職種に関わる諸問題						
9	障害の心理的・社会的視点（防衛機制、コーピング）						
10	リエイブルメント①（デンマークにおけるリエイブルメント）						
11	リエイブルメント②（施設におけるリエイブルメントとADL・IADL-taxsonomi）						
12	リエイブルメント③（施設におけるリエイブルメントとADL・IADL-taxsonomi）						
13	障害者スポーツ大会・ボランティア①						
14	障害者スポーツ大会・ボランティア②						
15	終講試験						
評価方法	提出物、出席点、終講試験を勘案し総合的に判定する。						
教科書	医学生・コメディカルのための手引書 リハビリテーション概論 改訂第4版						
参考書							
備 考	予習、復習を行うようにしてください。						

2025年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	保健医療福祉概論			担当講師	山口茜、渋谷悦子、高堀雅子、岩瀬豊、 藤井慎也、石橋悠、		
分野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験	専門職としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	地域包括ケアシステム、多職種連携、就労支援、自立支援について、オムニバス形式で学ぶ。						
到達目標	1. 地域包括ケアシステムについて説明できる。 2. 地域包括ケアシステムにおける理学療法について説明できる。 3. 多職種連携、チーム医療、自立支援について説明できる。 4. 多職種連携における理学療法士および、他職種の役割について説明できる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容	
1	オリエンテーション、地域包括ケアシステム（１）概論（理念、背景、制度など）	山口
2	地域包括ケアシステム（２）理学療法士に求められる役割	山口
3	多職種連携（１）多職種連携、チーム医療の基礎	山口
4	多職種連携（２）多職種連携における理学・作業療法士の役割及び自立支援	山口
5	多職種連携（３）作業療法士とは？	岩瀬
6	多職種連携（３）作業療法士と理学療法士の連携	岩瀬
7	多職種連携（４）言語聴覚士とは？、言語聴覚士と理学療法士の連携	高堀
8	多職種連携（５）看護師とは？、看護師と理学療法士の連携	渋川
9	多職種連携（６）介護福祉士とは？、介護福祉士と理学療法士の連携	藤井
10	多職種連携（７）介護支援専門員とは？、介護支援専門員と理学療法士の連携	藤井
11	多職種連携（８）メディカルソーシャルワーカーとは？、メディカルソーシャルワーカーと理学療法士の連携	
12	多職種連携（９）管理栄養士とは？、管理栄養士と理学療法士の連携	石橋
13	多職種連携（１０）保健師とは？、保健師と理学療法士の連携	渋川
14	就労支援（１）職業の意味と就労支援に関する理論	岩瀬
15	就労支援（２）障害者と職業（障害者の就労、就労支援技術）	岩瀬

評価方法	レポート課題に加え、出席情報を加味して総合的に判断する。
教科書	配付資料
参考書	なし
備 考	